

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
診療局次長兼内科統括 兼総合内科・感染症内科主任部長 兼感染症センター長兼臨床研修センター長 兼院内感染対策室長兼産業医	倭 正也

＜関連部署＞

総合内科・感染症内科	救命診療科
院内感染対策室	リハビリテーションセンター
薬剤部門	看護局
検査部門 臨床検査	特殊任務看護師
放射線部門	臨床工学・技術部門 臨床工学
総務課	医療マネジメント課

＜特色と概要＞

感染症センターは泉佐野市立感染症センターとして、輸入感染症の国内侵入を阻止するため1994年に関西国際空港対岸のりんくうタウンに建設された。りんくう総合医療センターとして総合的に運用されていたが、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」施行以来、市立泉佐野病院の管轄下に移行した。現在は、西日本唯一の特定感染症指定医療機関であり、感染救急対応の機能を持つ感染症センターである。特定感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、関西空港検疫所、大阪検疫所、大阪府等関連機関との会議や合同訓練、見学、医大生の実習受け入れ等を実施。特定感染症指定医療機関をはじめとする感染症指定医療機関と連携し受け入れ体制整備を行っている。

これまでの経験として、2003年鳥からヒトへ感染が認められたH5N1亜型ウイルスによる高病原性鳥インフルエンザが、パンデミックインフルエンザ(新型インフルエンザ)に変異することを危惧し体制の強化を図っていたところ、2009年4月豚由来による新型インフルエンザ(2009pandemicH1N1)が発生した。その際には、感染拡大防止のため当センターが中心となり、国内、地域への大きな役割を担った。2014年、西アフリカでエボラ出血熱がアウトブレイクし、11月7日には我が国3例目(東京での2例目と同日)となるエボラ出血熱疑似症患者(ギニア国籍の20代女性)を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床(高度隔離陰圧室)に受け入れた。

2016年2月、安倍総理は「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」で、特定感染症指定医療機関について、エボラ出血熱の患者に対する海外での医療機関の対応も踏まえ、エボラ出血熱等の重症患者に対する集中治療が行えるよう設備の充実を計画的に進め、その機能の強化を図るという方針を出された。2016年3月15日財務省と厚生労働省の方が当センターの視察をされた。集中治療のための準備をするべく2016年12月に集中治療の医療機器が設置された。2017年、厚生労働省より集中治療のための病室拡

張の意向確認があり、2018年に高度安全病床(高度隔離陰圧室)の改修工事及び滅菌設備の更新等の工事整備を行った。病室の広さはこれまでの3倍となり、院内最大の集中治療対応の陰圧個室となった。

新興感染症の集中治療を、高度隔離陰圧室内でfull PPE着用下にて医療者の二次感染を防ぎ安全に施行するには適切なトレーニングが必要になる。米国にはすでにNational Emerging Special Pathogens Training and Education Center (NETEC)による確立されたコースがあるがわが国にはなかった。EVDの集中治療に成功したフランクフルト大学病院やネブラスカ大学医療センターからの技術研修等を通して、感染対策に十分に留意した気管挿管、中心静脈穿刺、CRRT、ECMOなどの集中治療施行手順を作成し、2019年10月にはわが国初となる一類感染症等集中治療アドバンスワークショップ研修会を当院において開催し、特定感染症指定医療機関である国立国際医療研究センター、成田赤十字病院の感染症専門医、集中治療専門医、看護師、臨床工学技士からなるチームに対して技術指導等を行ったことは大変有意義であった。この経験を活かせたのが新型コロナウイルス感染症である。2019年12月、倭感染症センター長より、中国武漢から発生した新型コロナウイルス感染症の感染者が来院する可能性と対応の指示があり、2020年1月より大阪府、関西空港検疫所より新型コロナウイルス感染症疑い患者が相次いで来院した。(後に1名は当院の検査で陽性と判明) 3月、新型コロナウイルス感染症の重症者2例の受け入れを経験した。感染症センター高度安全病床にて手指衛生の徹底を基にした手順で、医師と特殊任務看護師、臨床工学技士が協力して感染対策に十分に留意して気管挿管、人工呼吸管理、CRRT等の集中治療を行うことができた。これまで行ってきた研修や訓練による成果を確認できたことは大変貴重であった。

重症者2名を含めた満床状態が続く中、新型コロナウイルス感染者数の増加により第1波に入る頃、当院の受け入れ体制が強化された。救命救急センターEICUで重症者4床、感染症センターは中等症10床の受け入れへ変更した。その後、5階海側病棟を軽症患者受け入れ病棟としたが、看護師の分散状態により看護師不足が生じ、感染症センター業務の継続が困難となり、9月18日に感染症センターを閉鎖した。同9月、新型コロナウイルス感染症患者への抗体カクテル療法外来を開設した。2022年9月、一類、二類感染症等の新興感染症対応の特殊任務看護師の養成を高度な感染防御からクリティカルケア看護までの内容とし講義に多職種の協力を得た。2023年度は特殊任務看護師を目指す看護師のカリキュラムを開講し動画で繰り返し学習する環境を整えた。2024年2月、新型コロナウイルス発生以降、

5年ぶりに大阪府感染症患者移送訓練(大阪府主催)を本庁、関西空港検疫所、和泉保健所、民間救急事業所と合同で行った。各機関との連携、初の民間救急による患者移送、搬送経路、感染予防対策等の検証ができた有意義な訓練となった。2024年度は一类感染症等集中治療アドバンストワークショップを6月に当院において2回の開催を行い第一種感染症指定医療機関の3施設が参加された。ネブラスカ大学医療センターからエボラ出血熱の実経験のあるスタッフ看護師を講師として再度招聘し、2回に渡って直接的に指導を受け、米国の最新の状況についても共有する機会を得た。さらに、2024年度第3回一类感染症等集中治療アドバンストワークショップにおいては、次なる重症呼吸器感染症のパンデミックあるいは鳥インフルエンザH5N1に対する備えとして、COVID-19における対応を振り返りながら、ECMO特別コースを特定感染症指定医療機関(りんくう総合医療センター、国立国際医療研究センター、成田赤十字病院)を対象として、3医療機関の講師、受講者合計17名の参加にて当院において開催した。これまでの合計10回(参加医療機関13施設)の本ワークショップの準備、開催、受講、講師参加、さらに国内および米国の医療機関との交流を通して、各施設における課題がさらにクリアになった。国内の一类感染症等への万全の準備を進めるために、手順書整備、医療機関間の交流などを進め、今後も一类感染症等集中治療アドバンストワークショップを継続的に行う必要性があると考えられる。

2025年度は大阪・関西万博が開催され、一类感染症、二類感染症あるいは鳥インフルエンザ(H5N1)などの万一の発生に備えたが万博に関連する症例はなく無事に終了。4月より国立健康危機管理研究機構(JIHS)が設立された。次なる新興感染症パンデミックの備えとして世界の感染症の情報共有等により連携を深めた。また、厚生労働省委託事業として、新興・再興感染症発生時の回復者血漿による免疫グロブリン製剤確保体制の検証事業の検証をするため、各職種でシミュレーションを実施した。COVID-19の回復者血漿の経験がない職員も経験がある職員にも、次なる新興感染症パンデミックの備えとして知識や共通認識を深める良い機会となった。

<実績>

院内訓練研修(特殊任務看護師)

11月21日	多職種合同シミュレーション CV挿入 看護師14名 検査技師2名 放射線技師2名
1月16日	災害訓練シミュレーション 看護師10名

特殊任務看護師 PPE 着脱訓練(回数) 8回開催

院内訓練研修(臨床検査技師)

6月2日～6月6日	新PAPR(3M社バーサフロー)の操作説明会 32名
6月23日～6月27日	新規導入機器(3機種)の操作訓練 32名
8月8日～8月20日	遺伝子検査結果報告のためのスキャナの使い方と報告方法の説明会 30名
1月19日～2月10日	新PAPR(3M社バーサフロー)の役立つ訓練 29名

院内訓練研修(臨床工学 感染症対応チーム)

9月7日(日)	一类感染症等集中治療アドバンストワークショップ ファシリテーター 金口優生
---------	--

9月14日(日)	一类感染症等集中治療アドバンストワークショップ ファシリテーター 中平大志
9月29日(月)	防護服着脱訓練 2名 中平大志,金口優生
11月25日(火)	防護服着脱訓練 2名 川真田ひより,小川裕司
12月16日(火)	防護服着脱訓練 2名 田村舜,鍋田昂希

ICROWN 事業

7月9日(水)	感染症臨床研究ネットワーク事業協力責任者会議(web) 倭正也 (現地)深川敏子
10月24日(金)	感染症臨床研究ネットワーク事業協力責任者会議(web) 倭正也

厚生労働省委託事業

「新興・再興感染症発生時の免疫グロブリン確保体制整備事業」に於いて、新興・再興感染症発生時に国内で血液を原料とした免疫グロブリン製剤の製造を行うため、医療機関・採血事業者・血漿分画製剤メーカー等での体制整備等に関する手順書についての査読及び批判的検討を行う (web 開催) 倭正也

厚生省研究班

4月24日(木)	新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業(第1回) 一类感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究_令和7年度班会議(対面とオンラインのハイブリッド開催) 倭正也
12月6日(土)	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 「わが国における輸入熱帯病・まれな寄生虫症の診断治療体制の整備」熱帯病治療薬研究班_令和7年度班会議(対面とオンラインのハイブリッド開催) 倭正也
3月25日(水)	新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業(第2回) 一类感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究_令和7年度班会議(対面とオンラインのハイブリッド開催) 倭正也

合同訓練

9月12日(金)	令和7年度関西空港検疫所検疫措置訓練 倭正也
----------	------------------------

院外訓練研修参加

12月10日(水)	令和7年度 新興感染症患者移送訓練 倭正也 令和7年度 感染症指定医療機関等関係機関連絡会 倭正也
-----------	--

DMAT

10月5日(日)	令和7年度第2回および第3回近畿ブロックDMAT技能維持研修
10月6日(月)	(集合研修) 倭正也

大阪府

11月17日(月)	「病院における面会」に関するインタビュー 倭正也
11月18日(火)	令和7年度第1回大阪府公衆衛生・感染症内科医師確保懇話会(オンライン開催) 倭正也
1月30日(金)	各エイズ治療拠点病院 エイズ対策及び医療連携推進部会「エイズ医療委員会」 倭正也
2月19日(木)	エイズ診療拠点病院と大阪府医師会との連絡会(オンライン開催) 倭正也

大阪府感染症対策部会

8月15日(金)	令和7年度第1回大阪府感染症対策部会 倭正也
2月6日(金)	令和7年度第2回大阪府感染症対策部会 倭正也

大阪府感染症対策審議会

6月23日(月)	令和7年度第1回大阪府感染症対策審議会(書面開催) 倭正也
12月12日(金)	令和7年度第2回大阪府感染症対策審議会(書面開催) 倭正也
2月25日(水)	令和7年度第3回大阪府感染症対策審議会 倭正也

大阪府感染症対策審議会エイズ対策及び医療連携推進部会

1月30日(金)	大阪府感染症対策審議会エイズ対策及び医療連携推進部会 第1回エイズ医療委員会 倭正也
----------	---

大阪府動物由来感染症対策連絡会

3月19日(木)	令和7年度大阪府動物由来感染症対策連絡会 倭正也
----------	--------------------------

関西空港検疫所、大阪検疫所関連会議

7月4日(金)	令和7年度阪神地区感染症懇話会講演会 倭正也、山内真澄
11月10日(月)	令和7年度大阪港・阪南港健康危機管理連絡会議 倭正也
12月11日(木)	令和7年度関西空港健康危機管理連絡会議 倭正也、芹沢悠介
12月12日(金)	阪神地区感染症懇話会 倭正也

AMED

AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業_エムボックスの治療・予防体制の整備に関する研究開発_班会議(web開催) 倭正也

第1回	9月29日(月) 出席	第2回	2月18日(水) 欠席
-----	-------------	-----	-------------

<今年度の成果と来年度への抱負>

感染症センター長が世界や国内の感染症情報を早期に入手して指示することで、早期に体制づくりができた。輸入感染症の患者が来院することは、今後も多くなると予想される。救急外来での初期対応における感染対策の徹底と病院職員全員が一丸となって感染対策を行い、次なる新興感染症パンデミックに備えていきたい。